

平成 23 年度 実習レポート その4

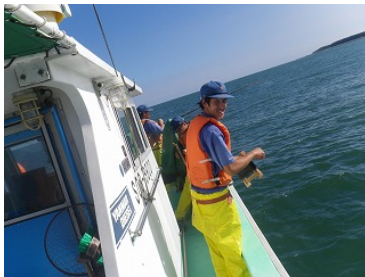
これまで、各種の資格試験や講義、視察など座学を中心とした実習を行ってきましたが、2 学期には 1 ヶ月にわたる乗船実習を行うことから、出入港時や船上での作業を少しでも覚えるために、本学園の実習船「わかたか (4.9 トン)」を利用した漁業実習が始まりました。

1 釣り実習

まずは、生徒の気分転換も兼ね、タチウオの一本釣りを行いました。道具は「てじ仕掛け」と呼ばれ、漁業者にはごくごく一般的なもので、ハリや錘の付いた道糸をじかに手で持ち、リールや竿は使わない仕掛けです。餌はサバの切り身を使いました。

焼津港前の水深約 100mの海域に船をアンカーで固定し (びょう泊)、釣りを開始しました。当日はよい風でしたが、慣れない船独特の揺れに船酔いをする生徒も何人かいましたが、はじめての釣り実習で、まずは自分が 1 番に釣り上げてやろうと、みんな張り切って開始しました。

一番最初に釣り上げたのは生徒のMくんで、残念ながら外道 (目的の魚ではない) のエゾイソアイナメでしたが、自慢げな面持ちでした。その後は、タチモドキとアカムツが釣れたものの、結局、本命のタチウオは教務が 1 尾釣り上げたのみで、楽しさよりも思うようには魚は釣れないと、自然相手の漁業の大変さをほんのちよっぴり味わえた実習となりました。



てじを楽しむHくん



ちょっと船酔いMくん



気がついたらタチモドキが
付いていたMくん

2 刺網実習

10 月中旬に刺網を使った試験操業を行いました。操業は釣り実習同様、焼津港前の水深約 30～60mの海域で行い、前日の夕方に網を設置しましたが、準備していた目印の浮き用ロープの巻き方が悪く、入網時に絡まってしまうトラブルがあり、事前準備の重要性を実感しました。

翌日、朝 5 時とまだ薄暗い中出港し、全員で順番に力を出し合い、網上げ作業を行いました。何がかかっているのか、興味津々の生徒達は網上げ作業をしながらも、船から身を乗り出し、網を見つめていました。

揚網時にはトラブルも無く、1 時間ほどで作業は終了し、帰園後すぐに漁獲物を網から外したり網の掃除、片付けを行いました。

今回は、エボダイが 44 尾と比較的多く獲れましたが、それ以外はシログチやマダイ、カマスなどが 1～数尾で、約 20 種類の魚やカニ、貝類が漁獲されました。

なお、漁獲したエボダイは職員がすぐに干物に加工しました。今後、生徒の給食に提供される予定です。



網上げ作業中



刺網の掃除、片付け



本日の漁獲物

3 干物作り実習

10月上旬、卒業生が乗船しているまき網漁船から、「在校生に食べさせてやって！」と、漁獲物のマイワシをいただきました。そこで、その魚を使って干物作りの実習をすることになりました。

夏休み前には、サンマを使って干物作りをしているので、今回で2回目の体験です。復習の意味合いもこめて行いましたが、すっかり忘れてしまったのか、魚が変わり開き方が変わったためか(サンマの背開きからイワシの腹開きに)、その結果は・・・。

丁寧な包丁さばきで、きれいに開くことができた生徒がいた一方で、魚を開いているのか、ブツブツに解体しているのか、見るも無残な残骸の山を築く生徒も少なくありませんでした。漁師になれば、自分で魚をさばくことも多々あります。今後もこういった機会を利用して、少しでも経験を積んでいきたいと思います。

この干物も、後日生徒の給食に提供される予定です。



マイワシの開き作業中・・・

その他

10月中旬、名古屋市にある中部運輸局において、海技士国家試験(10月定期・筆記)が行われ、本学園からも五級航海に2名、五級機関に4名が挑戦しました。4月の入学からわずか半年ですが、見事合格することを期待しています。

今後の予定

いよいよ、本学園最大のイベント、1ヶ月におよぶ乗船実習が11月10日から始まります(～12月12日)。県立焼津水産高等学校実習船「やいづ」に乗船し、船舶の運航やカツオ一本釣りに関する実習(現場体験)を行います。鹿児島やパラオ共和国にも寄港する予定です。すでに、いろいろな準備も進んでおり、生徒達は期待と不安が入り混じった毎日を過ごしています。